

横浜 IR についてパブリックコメントが行われているが、国際会議のシェアが低いことが導入の理由として挙げられている。

「方向性(素案)」8頁によると、展示場はドイツのハノーバー(46.6万㎡)が世界最大であるとのことだが、何故、横浜市の下山ふ頭(約47ha=約47万㎡)(「方向性(素案)」21頁)は、ドイツのハノーバーの分析を行った上での戦略を立てないのか。何故、シンガポール(「方向性(素案)」23、24頁)の分析しか行わないままに、巨額予算を要する政策を実行しようとするのか。「山下ふ頭という広大で資産価値のある一等地」を活用する方向として目指すべき競争相手は、何故ドイツのハノーバーではないのか。

世界から選ばれるためには、アジアやアメリカやオーストラリアの分析(「平成31年3月の調査報告書(その4)」73頁～)だけではなく、ヨーロッパの分析も政策決定の前に行われるべきだと考えるが、どうだろうか。

同様に、ギャンブル依存症対策も、アジアやアメリカやオーストラリアの分析だけではなく、ヨーロッパの分析も政策決定の前に行われるべきだと考えるが、どうだろうか。そうした分析を行わず、シンガポール、韓国、マカオ、ラスベガスの分析とだけ比較して(「方向性(素案)」76頁)、何故、「世界最高水準の規制」(「方向性(素案)」58頁)と言えるのか。

世界から選ばれる「横浜」となるために、ヨーロッパの分析の前置を望む。